



映像が人の感性に及ぼす影響

著者	金 多賢
学位授与大学	筑波大学 (University of Tsukuba)
学位授与年度	2013
報告番号	12102甲第6988号
URL	http://hdl.handle.net/2241/00122633

氏名（本籍） 金 多賢 （ 韓国 ）
 学位の種類 博士（ 感性科学 ）
 学位記番号 博甲第 6988 号
 学位授与年月 平成 26 年 3 月 25 日
 学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当
 審査研究科 人間総合科学研究科
 学位論文題目 映像が人の感性に及ぼす影響

主	査	筑波大学教授	博士（デザイン学）	五十嵐浩也
副	査	筑波大学教授	医学博士	宮本 信也
副	査	筑波大学准教授	博士（心理学）	山田 一夫
副	査	医療法人清風会施設長	医学博士	岩本 義輝

論文の内容の要旨

（目的）

本論文は、映像が人間の感性に及ぼす影響を探るために、心拍反応を調べる実験的検討、感情測定を用いて映像を見る人の感性を把握する実験的検討、並びに映像を見る場合の感性と関連する感情としてどのようなものがあるのかを把握しようとする目的を持っている。

（対象と方法）

事例研究 1 においては、シミュレーション映像に対する生理反応と年齢を探るために、大人と子どもに対して、映像を見た時の心拍反応を測定した。次に事例研究 2 においては、成人を対象として動画像に対する印象評価を元に感情反応を把握する実験を行った。事例研究 1, 2 は得おぞうを見る人の感性を把握する手法に関する研究である。更に事例研究 3, 4 においては映像を見る人の感性に関する検討として、事例研究 3 では映像のストーリー展開に関わる時間軸上での感情の変化を印象評価をもととして測定した。事例研究 4 においては映像の BGM が感情に及ぼす影響について印象評価によって測定した。

（結果）

事例研究 1 からは、大人の場合心拍の変化が小さく、子供の場合は年齢が上がるに連れて心拍変化の程度、偏差が大きくなるなど、心拍測定による感性の把握は困難が伴うことが示された。事例研究 2 においては、「緊張」という感情が快／不快概念の両方に対して寄与しているなど、映像を見る場合の感性を捉える方法としての可能性が示された。事例研究 3, 4 からは「緊張」に加えて

「驚き」という感情が、映像を見た場合の快／不快概念を同時に有するという知見が得られた。また、「幸せ」という感情は映像において引き起こされる最も快感情であり、映像に含まれる「温かい」印象が寄与することも示唆された。

(考察)

映像を見た場合、印象評価を通じて感情を測定した場合、感性を把握する可能性が確認できた。映像を見た場合「緊張」「驚き」「幸せ」という3つの感情が相互に作用し、「緊張」「驚き」を感じることによって映像に対する注目度が増加した場合、その後に最も快感情である「幸せ」を感じることで感動に至るという反応が存在することがわかった。また、先行研究にもとづき、「緊張」「驚き」という感情と快／不快概念との構造が確認された。これらの感情を利用することにより、映像制作者は注目を集める映像の表現が可能になるという示唆を得た。

審査の結果の要旨

(批評)

映像を見た時に人が感じる感情の分析を通し、映像制作者が今後映像を制作する際の留意点を抽出するという研究となっている。抽出された感情としては「緊張」「驚き」かつ「幸せ」という3つの感情であるが。映像のストーリー展開の中でこれらの感情が有している意味や相互の関係が示され意義あるものとなっている。

平成 26 年 2 月 4 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（感性科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。